

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	眼科学講座(大森):明るく楽しい眼科学教室を目指して
別タイトル	DEPARTMENT NEWS Department of Ophthalmology (Omori): Welcome to our Department of Ophthalmology!
作成者(著者)	堀, 裕一
公開者	東邦大学医学会
発行日	2016.09
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 63(3). p.254 255.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2016.r042
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD88159894

教室(診療科)紹介 (102)

明るく楽しい眼科学教室を目指して

眼科学講座 (大森)

教授：堀 裕一
 講師：柴 友明
 講師：松本 直
 医局長：岡島行伸

眼球は直径23mmほどの小さな臓器ですが、大変緻密な構造をしています。われわれ「ヒト」が外界から得る情報の80%が眼から入る「視覚情報」と言われており、眼科はもっともquality of life (QOL) に直結した診療科といえます。外からの情報(光線)は角膜、水晶体、硝子体、網膜、視神経を通して脳に送られます。この一連の流れを視路といいますが、この視路のどこかに異常があると視覚情報伝達の流れが悪くなり、「見えにくい」状態になります。われわれ眼科医は、「見えにくい」と訴える患者さんを目の前

にして、視路のどこに異常があるのかを、さまざまな検査を駆使して診断し、治療を行うことを仕事としています。

眼科学講座 (大森) について

東邦大学医学部眼科学講座(大森)は、1925(大正14)年の帝国女子医学専門学校の創立時より設立され、初代教授は長谷川俊明先生であります。その後、大岡良子教授、河本道次教授、松橋正和教授、朽久保哲男教授、と偉大な先輩方が眼科学教室の伝統を築き上げられました。2014(平成26)年4月より堀が9代目として、教室を主宰することになりました。

東邦大学医療センター大森病院眼科(当科)には目指すべき3つの目標があります。それは、「明るく楽しい眼科」、「皆様に愛される眼科」、「情報を発信できる眼科」を皆で創っていくことです。当科は、伝統的に医局の雰囲気が非常によく、医局員全員がとても仲が良いのが特徴です。先輩方が築き上げられた伝統を継承しながら、眼科に携わるスタッフ全員が幸せに毎日を過ごせるように環境を整えることが教室主宰者の使命だと考えます。働いている皆が幸せになることで、良質の医療を提供することが可能となり、社会に新しい情報を発信できると考えます。

われわれが目指す医師像とは

われわれが目指している眼科医像が2つあります。Clinician scientist(クリニシャン・サイエンティスト)とreliable specialist(リライアブル・スペシャリスト)です。

Clinician scientist(クリニシャン・サイエンティスト)とは、常にリサーチマインドを持って診療にあたる臨床医



医局員集合写真

前列左より松本 直講師、堀 裕一教授、柴 友明講師

という意味で、大学病院で働く医師として必ず目指すべき姿だと考えます。忙しい日常臨床では、ややもすれば経験や慣習をただ単に繰り返すだけの毎日になってしまいます。常に「なぜ」「どうして」と知的好奇心を発揮し、新しい知識や技術を貪欲に取り入れながら診療に携わる習慣をつけていきたいと思っています。

2つ目の reliable specialist (リライアブル・スペシャリスト) ですが、眼科はその性質上、かなり臓器に特化した診療科ですし、眼科医は人々の視覚情報を守ることにかけては一流のスペシャリストであるべきと思っています。また同時に眼科臨床では、眼底検査などで眼から全身疾患の状態を判断することも多く、他科の領域の先生方とのコラボレーションも非常に多いです。そのようなときに、周囲から「あの先生だったら眼のことは任せて安心」と信頼され愛されるスペシャリストになりたいと思っています。

“大森眼科” から世界へ発信

現在、当科には、3つの研究グループ — 前眼部チーム、後眼部チーム、小児眼科チーム — があります。

前眼部チームは私 堀がリーダーで、診療面では角膜移植や角膜感染症治療に力をいれています。昨年の平成27年度は約40例の角膜移植を行い、他道県から多くの患者様をご紹介いただいています。研究面では角膜感染症における網羅的遺伝子解析や眼表面ムチンの研究で大学院生を中心に精力的に学会発表や論文作成を行っています。

後眼部チームは柴 友明講師がリーダーとなっており、当科は都内でも有数の網膜硝子体疾患を扱う眼科となっております。柴先生の指導の下、若い伸び盛りの医師達が日々

硝子体手術の研鑽に励んでいます。研究面では、柴講師は網膜循環を測定するレーザースペックルフローグラフィ（laser speckle flowgraphy : LSFSG）という新しい検査機器を駆使して全身疾患と眼循環との研究をライフワークとしています。現在までに慢性腎臓病や睡眠時無呼吸症候群、心疾患と眼循環の関係について明らかにしており、彼のグループから年に何本もの英文論文がpublishされています。

小児眼科チームは未熟児網膜症を専門としている松本直講師がリーダーです。小児眼科を専門とする眼科医は数が少なく、松本先生は当院だけでなく大学間の枠を超えて都内の多くの病院で未熟児の眼科診察を行っており、全国でも大変貴重な存在です。研究面では、松本先生は自身が開発した改良型 LSFSG を使って世界で初めて新生児の網膜血流を測定し、その多数例での報告が今年海外論文発表されました。また当科は新しい未熟児網膜症の治療である抗vascular endothelial growth factor (VEGF) 薬の国際治験にも参加しており、松本先生を中心に小児眼科の分野で精力的に臨床・研究を行っています。

みなさまへ

東邦大学医療センター大森病院眼科は医局員やスタッフが皆若く、伸び盛りの元気な教室です。これからも皆様に愛され信頼される眼科を目指して臨床、教育、研究と真摯に頑張っていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

(堀 裕一)

DOI: 10.14994/tohoigaku.2016.r042